

2026 SEPTEMBER NEWSLETTER

REPORT TO PARENTS



FC TRIGGER × RYOHEI HAYASE

保護者の皆さま、こんにちは。早瀬です。

日頃より、選手たちの活動を温かく支えていただき、本当にありがとうございます。9月27日、3年生の学年ミーティングと、1・2年生を含む人間力育成プログラムの説明をオンラインで実施しました。今回は、当日の様子と、10月から始まる新しい取り組みについてご報告します。

■ 和歌山県リーグ優勝の先にある、本当の挑戦

和歌山県リーグの優勝が決まりました。選手たちが積み重ねてきた努力が形になったことを、心からうれしく思います。一方で、優勝が決まった今、残りのリーグ戦へどのような姿勢で臨むのが、チームの次の成長を左右します。

目標は、サンライズリーグ参入戦へ向けて、クラブとして、チームとして、そして最終学年の3年生として、さらに前のめりに取り組むことです。優勝という結果に甘んじるのではなく、自分たちから次の基準をつくり、勝つための空気を生み出していく必要があります。

その中心となるのが学年リーダーです。まずリーダーが熱を持ってチームの課題へ向き合い、その熱を仲間へ伝え、必要な行動を求めていく。一部の選手だけが頑張るのではなく、学年全体が同じ方向へ進む環境を、選手自身の手でつくってほしいと考えています。

今回の学年ミーティングは、そのための最初の実践となりました。

■ リーダーが準備し、リーダーが動かした3年生学年ミーティング

9月から、キャプテン・副キャプテンを中心とする学年リーダーと早瀬が事前にリーダー会議を重ねてきました。現在の学年に必要な課題を整理し、話し合うテーマ、グループ編成、当日の進め方まで、リーダーたちが準備しました。

当日は「今の状態から、さらに良いチームになるために何を変えるか」をテーマに、①一人ひとりが変える具体的な行動目標の宣言と共有、②3年生全体で取り組む行動の決定、という二つのゴールに向かって対話しました。早瀬は冒頭で、リーダーたちが前向きに準備してきたことを伝えた後、進行には入らず、選手たちの運営を見守りました。終了後には、リーダー陣へファシリテーションのフィードバックを行っています。

■ 3年生が決めた4つの取り組み

1. 練習後の全体ミーティング

練習後に全員で短い振り返りを行い、感じたことや改善点を共有します。

2. スマートフォンの使い方

練習前・試合前はゲームなどを禁止し、チーム活動へ集中できる使い方を選びます。音楽を聴くことは可としました。

3. 円陣後のハイタッチ

火曜日の学年ミーティング後、円陣の後にハイタッチを行い、週の始まりに学年全体の士気を高めます。

4. 練習コメント

練習後に短時間でも自分と向き合い、振り返りをポジション別グループへ送ります。練習前には、そのコメントをもとにポジション別の対話を行います。まず3年生が試し、改善を重ね、必要に応じて1・2年生へ広げます。

■ 10月から、人間力育成プログラムを更新します

これまでは、3学年約90名が同じオンラインミーティングへ参加し、人間力やチームビルディングについて学んできました。10月からは、学年ごとの課題へより深く向き合い、選手一人ひとりの成長を日常へつなげるため、次の3つを軸に進めます。

■ 1．学年ミーティング

各学年から3〜4名のリーダーを選び、早瀬とのリーダー会議を行ったうえで、月1回・60分の学年ミーティングを実施します。大人から答えを与えるのではなく、選手自身が課題を見つけ、仲間の意見を聴き、学年を良くする行動を決めます。

■ 2．Weekly Sunday

月3回、日曜日20時から、人間力を育てるオンラインの学びを行います。人として大切な考え方や言葉に継続的に触れ、1週間を振り返り、翌日から始まる新しい1週間へ向けて心と行動を整える時間です。主体性、自責思考、自己管理、継続など「人間力10」のテーマを、日常の具体的な行動へつなげます。

試合やチーム活動、ご家族との大切な時間を優先しながら、予定が合う場合はリアルタイムで参加します。参加できない場合は、後日できるだけ早く約20分の動画を視聴し、振り返りシートを提出する形を予定しています。開催日程は選手のグループLINEへお送りします。

■ 3．必要時の個別相談

サッカー、チームでの役割、学校生活、進路、目標設定など、選手本人が必要と感じたときに早瀬へ相談できます。一人で抱え込まず、言葉にしながら考えを整理し、次の行動を決めるために活用してもらいます。

■ 1・2年生も、自分たちの学年を動かす準備へ

9月27日の説明では、1・2年生に対して「リーダーとはどのような人か」という前提から共有しました。リーダーは、サッカーが一番上手な人や、一人で全員を引っ張る人だけを指すではありません。仲間の声を聴き、学年全体を考え、普段の行動で信頼を積み重ねられる人です。

そのうえで、リーダーをやってみたい選手の挙手と、仲間からの推薦の両方を取り入れました。自ら挑戦したい選手の意思を大切にすると同時に、本人は自信がなくても、周囲から信頼されている選手の存在にも光を当てるためです。挙手と推薦、日頃の様子を踏まえ、現時点での学年リーダーを仮決定しました。

10月以降は、1・2年生もリーダー会議と学年ミーティングを始めます。リーダーだけに責任を預けるのではなく、参加する全員が「自分も学年をつくる一人である」という当事者意識を持つことを大切にします。

■ 選手が、自分の24時間を自分でデザインできるように

学年ミーティングでは、自分たちのチームを良くする。Weekly Sundayでは、自分自身の考え方と行動を高める。この二つを両輪として、勝利と育成の両立を追求していきます。

選手たちが、自分の進路やキャリアへ前のめりに向き合い、サッカーだけでなく、学校生活や私生活を含めた24時間を自分で考え、選択できる人になってほしいと思っています。組織の課題について仲間と話し合い、自分たちで行動を決める経験は、ピッチ内での変化だけでなく、進学先や将来の社会においても必ず生きる力になります。

新しい取り組みは、実践しながら改善を重ねていきます。保護者の皆さまには、引き続き温かく見守っていただき、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

選手自身がチームを動かし、自分の人生を動かす。